

事業報告書

The logo consists of the letters 'A', 'R', and 'S' in a bold, green, sans-serif font. The 'A' and 'R' are connected at the top, and the 'S' is positioned to the right of the 'R'. The letters are thick and have a slight shadow effect.

学校法人 郷学舎

令和5年度事業報告書

(2023年4月1日～2024年3月31日)

1.法人の概要

(1)基本情報

法人名	学校法人 郷学舎	学校名	アルスコンピュータ専門学校
学校所在地	〒360-0046	創立	昭和63年4月1日
連絡先等	埼玉県熊谷市鎌倉町1-2-4 TEL : 048-526-0919 FAX : 048-525-8119 URL : http://www.arsnet.ac.jp/school	専修学校	昭和63年3月31日認可
		法人	昭和63年3月31日認可
		理事長名	新井 公一
		校長名	荻野 欣男

(2)建学の精神・教育理念・教育方針

本校の教育は全ての学科・コースで『建学の精神』『教育理念』『教育方針』のもと、実施されます。『建学の精神』『教育理念』『教育方針』が本校教育の基盤であり、『ARSの教育体系』としています。

教育理念や教育方針に基づき3ポリシー（『ディプロマポリシー（DP）』『カリキュラムポリシー（CP）』『アドミッションポリシー（AP）』）が策定されています。

建学の精神

「学^{むか}に郷う 郷土の学びや」

～向学の志と実学の精神を養い、社会に貢献する人材を育成する～

教育理念

「習得 Acquirement 信頼 Reliability 誠実 Sincerity」

～高度な知識・技術を有し、誠実で信頼される人材の育成～

※ARSとは「訓練・熟練によって習得される高度な技術・技能」を指したラテン語

教育方針

(1)スペシャリストの養成

職業教育を通じて、実践的な知識・技術・資格を備えたスペシャリストを養成する。

(2)豊かな人間性の育成

キャリア教育を通じて、職業人として必要な責任感、誠実さ、協調性、柔軟性、倫理観を持った人材を育成する。

(3)学校法人の沿革

年月日	事項
	法人設立
昭和 62 年 6 月 8 日	埼玉県私立学校審議会・事業計画承認
昭和 63 年 3 月 23 日	埼玉県私立学校審議会・許可答申
昭和 63 年 3 月 31 日	埼玉県知事認可
昭和 63 年 4 月 1 日	学校法人 郷学舎 設立
	学校設置
昭和 62 年 6 月 8 日	埼玉県私立学校審議会・事業計画承認
昭和 63 年 3 月 23 日	埼玉県私立学校審議会・許可答申
昭和 63 年 3 月 31 日	埼玉県知事認可
昭和 63 年 4 月 1 日	アルスコンピュータ専門学校開設(専修学校専門課程) 初代校長 高橋達治就任
	校舎建設
昭和 62 年 10 月 14 日	起工式
昭和 62 年 12 月 29 日	上棟式
昭和 63 年 3 月 30 日	竣工
平成 18 年 2 月 22 日	熊谷市鎌倉町 125 番地を校地として取得
平成 19 年 9 月 4 日	熊谷市鎌倉町 123 番地の土地・建物取得、校舎として検査完了
平成 22 年 4 月 1 日	熊谷市鎌倉町 125 番地の校地に学生センター建設
平成 24 年 2 月 28 日	熊谷市本町 1-149-1 の土地・建物(研究室)を取得
平成 26 年 2 月 10 日	熊谷市鎌倉町 126 番地を校地として取得
平成 26 年 6 月 2 日	熊谷市鎌倉町 127 番地、128 番地を校地として取得
平成 29 年 3 月 29 日	熊谷市鎌倉町 128 番地の校地に C 棟建設
	開校
昭和 63 年 4 月 12 日	第 1 回入学式挙行
平成 2 年 3 月 15 日	第 1 回卒業式挙行
平成 1 年 4 月 1 日	二代校長 戸川武三就任
平成 7 年 1 月 23 日	工業専門課程情報システム科(2 年課程)、商業実務課程情報経理課(2 年課程)、 OA ビジネス科(2 年課程)の修了者への専門士称号授与承認
平成 11 年 4 月 1 日	情報システム科コース改編／情報経理科コース改編 OA ビジネス科改称・改編
平成 12 年 4 月 1 日	三代校長 持田敬夫就任
平成 14 年 4 月 1 日	IT 総合研究科 IT 総合研究コース新設

平成 15 年 7 月 29 日	目的変更計画埼玉県知事承認（福祉保育科情報保育コース）
平成 16 年 4 月 1 日	同認可
平成 19 年 2 月 22 日	教育・社会福祉専門課程福祉保育科（3年課程）の修了者への専門士の称号授与承認
平成 20 年 4 月 1 日	四代校長 荻野欣男就任
平成 22 年 4 月 1 日	ビジネス・ベーシック科新設
平成 26 年 3 月 31 日	文部科学省「職業実践専門課程」認定(3学科 6コース) <ul style="list-style-type: none"> ■ 工業専門課程 情報システム科 ■ 商業実務専門課程 情報ビジネス科 ■ 教育・社会福祉専門課程 福祉保育科
平成 28 年 4 月 1 日	ビジネスベーシック科を廃止 情報システム科コース改編 CG デザイナーCAD コースを廃止 情報システム科 プロダクトデザイナー・CAD コース(1 学年定員 20 名)とビジュアルデザイナーコース(1 学年定員 20 名)を新設
平成 29 年 4 月 1 日	国際 IT ビジネス科 国際 IT ビジネスコースを新設(1 学年定員 20 名) 情報ビジネス科コース定員改編 保健・医療ビジネスコース(1 学年定員 20 名)
平成 30 年 1 月 11 日	創立 30 周年記念式典を挙(熊谷文化創造館さくらめいと)
令和 1 年 9 月 20 日	高等教育の修学支援新制度の対象校に認定
令和 4 年 4 月 1 日	AI システム科 AI エンジニアコースを新設(1 学年定員 20 名) 福祉保育科幼児保育コース募集停止(1 学年 15 名)
令和 5 年 1 月 27 日	工業専門課程 AI システム科(2 年課程)の修了者への専門士の称号授与承認
令和 6 年 3 月 16 日	福祉保育科幼児保育コースを廃止

(4)設置する学科・コース等

課 程	学 科 名	コ ー ス 名	修業年数	収容定員
工業専門課程	A I シ ス テ ム 科	AI エンジニアコース *2022 年新設	2 年	4 0 名
		システム開発コース	2 年	4 0 名
	情 報 シ ス テ ム 科	ゲームクリエイターコース	2 年	4 0 名
		プロダクトデザイナー・CAD コース	2 年	4 0 名
		ビジュアルデザイナー・コース	2 年	4 0 名
商業実務専門課程	情 報 ビ ジ ネ ス 科	情報ビジネスコース	2 年	4 0 名
		保健・医療ビジネスコース	2 年	4 0 名
	国際 I T ビジネス科	国際 I T ビジネスコース	1 年	2 0 名
教育・社会福祉専門課程	福 祉 保 育 科	幼児保育コース *2024 年 3 月閉科	3 年	1 5 名
工業専門課程	I T 総 合 研 究 科	I T 総合研究コース	1 年	1 0 名

収容定員充足率（毎年度5月1日現在）

年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
定員充足率	88.3%	104%	112%	106%	103%	103%

(5) 役員概要

<理事数 6名>

役職	氏名	寄附行為による選任区分	学内・学外の区分	任期
理事長	新井 公一	第6条(3)	学内	2021年4月1日～2024年3月31日
理事・校長	荻野 欣男	第6条(1)	学内	2021年4月1日～2024年3月31日
理事	正田 淳一	第6条(2)	学内	2021年4月1日～2024年3月31日
理事	大島 譲二	第6条(3)	学外	2021年4月1日～2024年3月31日
理事	山崎 靖広	第6条(3)	学外	2021年4月1日～2024年3月31日
理事	久保田 孝子	第6条(2)	学内	2021年4月1日～2024年3月31日

* 寄附行為による選任区分

第6条(1) アルスコンピュータ専門学校校長【1人】(2) 評議員のうちから評議員会において選任した者【2人】

(3) 学識経験者のうち理事会において選任した者【3人】

<監事数 2名>

役職	氏名	主な現職	任期
監事	田代 嘉昭	会社代表取締役	2022年4月1日～2024年3月31日
	木村 美知子	特定社会保険労務士	2021年4月1日～2024年3月31日

➤ 役員賠償責任保険加入済

(6) 評議員概要

<評議員数 13名>

役職	氏名	任期
評議員	新井 公一	2021年4月1日～2024年3月31日
	荻野 欣男	2021年4月1日～2024年3月31日
	正田 淳一	2021年4月1日～2024年3月31日
	大島 譲二	2021年4月1日～2024年3月31日
	山崎 靖広	2021年4月1日～2024年3月31日
	久保田 孝子	2021年4月1日～2024年3月31日
	他7名	

(7)教職員の概要(令和5年4月1日)

区 分	実 員		
	専 任	専任以外	合 計
校 長	1		1
教 頭 職	1		1
教 員	13		13
講 師		40	40
助 手	0		0
事 務 長	0		0
事 務 職 員	11		11
その他職員		6	6
合 計	26	46	72

2.事業の概要

事業基本方針を<『成長』が実感できる学校づくり>とし、学校運営を行ってまいりました。アダプティブラーニングの推進では、学生ひとり一人の理解度にあわせた教育の充実を目的に複数のデジタルツールを活用した検定対策等も実施しました。開校以来の本校の特色の一つである『少人数・担任制』教育をベースに、新たな教育手法を組み合わせることで、よりきめ細かな教育の提供を目指しています。令和4年度に新設した『情報教育強化委員会』の運営も開始され、情報系コースの教育内容強化、全学科コースのICT教育の推進、学内教職員向けのICTスキル向上勉強会等が開始されました。

今後も学生はもちろんのこと教職員、組織体制等においても『成長』を実感できる学校づくりを推進して参ります。

(1)主な教育活動

●教育DXの推進について

(A) アダプティブラーニングの推進

①学生ひとりひとりの理解度にあわせた教育の充実

1. 「Monoxer」の導入

学生が個人のスマートフォンを使用して、クイズゲームのように選択式の出題に答えていくツールのMonoxerを今年度から導入。

主に、ビジネス文書検定、医療秘書、商業簿記、情報活用試験などの暗記問題を教員が作成し、学生は決められた期限の中で繰り返し課題に取り組んだ。単なる暗記はMonoxerを活用し、授業中は思考力が問われる問題の解説に時間を掛けることが出来ており、検定合格の実績も上がった。次年度も継続して活用する。

2. 小テストからの分析ノウハウの共有

GoogleFormを活用し、自動採点や問題ごとの正解率・クラスごとの正解率・クラスごとの平均点が算出される仕組みを作った。例えば正解率の低い問題について、記憶が新しいうちに補足説明ができるなどの活用をしている。今後、活用を広げていく。

②各コースで取り組んでいる内容に工夫を重ねて継続して取り組んだ。

コース	実施内容
AIエンジニアコース	<ul style="list-style-type: none">● 1年次でAI検定合格率100%を目標に通年科目の人工知能概論を実施。結果、全員合格。G検定の受験期を11月と3月に設定し1年次での取得機会を増加。80%の取得率となった。● 2年次のAIシステム開発実践や卒業研究に向けて、座学では人工知能概論を、プログラミング科目としてPython実習、AIプログラミング、アルゴリズム、データベース技術の4科目を実施。1年次終了時点では、画像認識とデータセットの取り扱いまでを実施した。● 放課後学習時間を設け、検定対策、課題作成の時間を確保し、モチベーションの維持、コミュニティづくりを実施した。
システム開発コース	<ul style="list-style-type: none">● 今年度より通年での基本情報技術者受験となったため、全体的な対策スケジュールの見直しを行なった。● 放課後学習時間を設け、検定対策、課題作成の時間を確保し、モチベーションの維持、コミュニティづくりを実施した。● IPA修了試験終了後、習熟度に応じた2年次の資格取得目標を立てる面談を実施した。
ゲームクリエイター	<ul style="list-style-type: none">● 業界就職希望者への放課後個別作品指導を、専門講師より実施した。● 業界就職希望者へC++言語の特別講座、企画作成講座を後期から行った。

一コース	<ul style="list-style-type: none"> ● 検定対策系授業では、板書や小テストの問題・解説は Teams 内で共有し、ノートを取り切れなかった学生や欠席者へのフォローとしている。 ● Excel を用いて問題を自作することが可能な「Kahoot!」というクイズゲームサービスを使用している。最大 10 名までの対戦形式が可能なので学生のモチベーションを高めることができた。来年度はこのサービスを利用することを前提として授業を進める。 ● 課題制作系の授業では、少人数のグループを作り、互いに教えあいながら課題制作を行った。
プロダクトデザイナー・CADコース	<ul style="list-style-type: none"> ● 2次元 CAD 利用技術者試験 2 級の対策用に e-learning 教材を導入し、各学生が場所を問わず、自分のペースで学習する授業を行なった。 ● 担任の授業に限り授業毎にマインドマップで授業の概要を作成し、teams の授業用チャンネルに授業前に公開し、授業の全容が把握できるようにした。欠課した学生も授業毎の概要・課題がいつでも確認できるようにし、授業アンケートでもわかりやすいという意見が書かれるようになった。
ビジュアルデザイナーコース	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎週(火)(木)の放課後を「勉強会」とし、2年生はポートフォリオ制作や1年生への技術指導を行い、1年生は課題や自主作品制作を行った。 ● キャリアデザインの授業内でポートフォリオ講評会を実施。キャリアデザインの授業内で、「公募ガイド」「登竜門」等のコンペ情報を提供し、応募を促した。 ● 作品制作では、個人差が出る。評価方法を工夫し個々を尊重した評価をしている。 ● Teams のチャット機能を活用し、検定試験対策の進捗管理や、就活についての情報共有などを個別に行なった。
情報ビジネスコース	<ul style="list-style-type: none"> ● 検定対策を行う際に、学生自ら得点推移表を付けさせ、習熟度を把握しやすようにした。その得点推移表を基に、個別ガイダンスを実施し、適切な課題の指示を行った。 ● 検定の過去問対策を行う際に、授業内で対策を行う回数以上の問題を配布し、自分の進捗に従い勉強できるようにした。 ● 検定対策のプリントのデータをオンラインストレージに保存し、学生が適宜ダウンロードして学べるようにした。
保健・医療ビジネスコース	<ul style="list-style-type: none"> ● 検定対策では、学生自らが課題の点検をして提出し、教員が確認して学生の理解度に合わせたフィードバックをした。得点推移表により成長度を共有した。 ● 「習熟度」を考慮しながら検定の受験級および受験時期を学生と相談して決定した。 ● 放課後に自習する学生からの質問に回答できるようにした。 ● 病院実習のフィードバックを個別に行い、就職指導や早期出社につなげた。
国際ITビジネスコース	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本語の習熟度に合わせて指導を行った。
幼児保育コース	<ul style="list-style-type: none"> ● 「ピアノレッスン」は、学生一人ひとりのレベルに合わせて個別指導を行った。実習準備として学生のレベルに合わせた楽譜を提供し指導を行った。 ● 「実習事前事後指導」実習前の指導案添削や製作物の指導、実習後の評価フィードバックなど個別対応を行い、就職指導等に繋げた。 ● 「保育・教職実践演習」責任実習のための模擬授業を一人ひとり行い、振り返りや学生のレベルに合わせた模擬授業を提案し指導した。 ● 「レポート、科目終末試験対策」個別に添削指導、試験対策を行い全員合格へと導いた。 ● 全員、資格取得（保育士、幼稚園教諭）を目指して指導を行った。

(B) デジタルツール等を活用した学生指導・学生管理の推進

①様々なデジタルツールの情報・ノウハウの共有を図る

Miro、Trello などのタスク管理・情報共有サービスの利用が定着してきた。またサイボウズや Teams などにより活用が進んでいる。情報共有も迅速に、漏れが無い様に工夫ができてきた。

しかし、ツールが増えすぎても混乱を招いてしまうため、利活用のルールを定めることを検討していく。

②学生情報の共有化ときめ細かな対応による休退学者の抑制

今年度は8月の1年生研修で、より詳細な Teams の活用方法（チャットや音声通話など）の指導を行った。また、今年度から退学防止会議の議事録を、会議担当者だけではなく、教員が同時に編集をできるように変更した。このことで気になる学生がいた場合に、担当がリアルタイムに入力することができるようになり、情報共有がしやすくなった。担任以外の教員も、学生の状況が把握しやすくなり、学生指導に役立っている。

(2)主な学生支援活動

- 高等教育の修学支援新制度をはじめ、日本学生支援機構の奨学金制度を学生が積極的に活用できるよう、きめ細かな説明を行った。

(3)在籍管理報告

- 調査書等をもとに特別な配慮が必要な学生について事前に各担任が状況把握している。
- 過去の休退学状況を分析し、問題が発生しやすい時期をまとめ、各担任が把握しておくことで先手を打って対策を講じた。
- ケースに合わせて三者面談に同席する教員を変え、学生が悩んでいる本質的な解決案を検討・提案する等した。

(4)就職内定報告

就職内定率（令和5年度）	就職内定率（令和4年度）	就職内定率（令和3年度）	就職内定率（令和2年度）
99.2%	99.3%	99.3%	99.2%

【令和5年度の主な就職先】（一部抜粋）

ソホビービー(株),(株)テクノプロ テクノプロ・デザイン社,PFU IT サービス(株),サービス&セキュリティ(株),(株)テクノプロ テクノプロ・デザイン社,(株)グローバルソフトウェア,(株)エイジェック,(株)ケイ・マックス,(株)BOD,宗教法人 見性院,サービス&セキュリティ(株),(株)フジミック埼玉,(株)NEXCO システムソリューションズ,サービス&セキュリティ(株),(株)オプナス,(株)メイテック フィルダーズ,(株)テクノプロ テクノプロ・デザイン社,(株)ワイズ,パシフィックシステム(株),有限会社エイ・ケイ・システム,エスアイエス・テクノサービス(株),(株)アルテクス,(株)ゾノー,パシフィックシステム(株),(株)テクノプロ テクノプロ・エンジニアリング社,(株)明幸フォーラム,サンライズシステム(株),(株)インクスジャパン ,日本マニユファクチャリングサービス(株),カーズ(株),(株)アシストビジョン,(株)横浜アニメーションラボ,(株)VN GROUP,(株)ベルク,(株)えい,(株)アドックインターナショナル,クリナップソリューション(株),サンライズシステム(株),TOPPAN エッジ IT ソリューション(株),(株)ベルーナ,関東ソフトウェア(株),津田工業(株),市光工業(株),(株)エイジェック,竹並建設(株),(株)吉貞,シコク景材関東(株),(株)岡部新電元,(株)イズミ技研,大塚ポリテック(株),竹並建設(株),(株)グラフィック,(株)ヤマザキ電機,秩父エレクトロン(株),(株)ムサシ,(株)アスパーク,共立印刷(株) 【埼玉工場】,エレクス(株),(株)いのう

え工務店,HR マネージメント(株),(株)武蔵野ユニフォーム,(株)JST,(株)ベルーナ,(株)アスカインターナショナル(ワールドグループ), (株)OS ロジテック 【勤務地:深谷市】,(株)エムケー,社会医療法人壮幸会 行田総合病院,(株)メガネフラワー,日本メタルガスケ ット(株),(株)ピーアイピー,有限会社エンデュランス,(株)ハイソフテック,東洋 FPP(株),(株)シー・エス・ケイ,阿部被服(株),(株)太洋社印 刷所,埼玉中央農業協同組合,(株)オプナス,スイスポーツジャパン(株),(株)ベルク,日興通信(株),PFU IT サービス(株),(株)アズコムデー タセキュリティ,秩父コンクリート工業(株),TOPPAN エッジ IT ソリューション(株),(株)アズコムデータセキュリティ,森乳業(株),(株) カナオカグラフィア,柳沢製袋(株),(株)ダイエー自動車販売,学校法人北里研究所,医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院,こくさい じくクリニック,社会福祉法人埼玉慈恵会 埼玉慈恵病院,公益財団法人 西熊谷病院,社会医療法人社団慶友会 慶友整形外科 病院,医療法人社団 たかの眼科,医療法人本庄福島病院 本庄総合病院,医療法人恵洋愛会 どんぐりこども診療所,医療法人 中村外科医院,医療法人 埼玉成恵会病院,(株)熊谷市薬剤師会,かなやま歯科クリニック,医療法人東征会 大谷整形外科病院,学 校法人吹上学園,学校法人豊美学園 上里幼稚園,学校法人愛恒学園 認定こども園秩父さくら幼稚園,社会福法人なでしこ会 放課後等デイサービス 他

- どの学科コースも例年に比べ就職活動の動きが早い年となった。
- 採用試験対策に力を入れたため、早いペースで内定が進んだ。
- 就職環境は昨年以上に良く、求人数は対前年比、1割増であった。

3.財務の概要

●決算の概要

令和5年度の事業活動収入計は317,299,706円、事業活動支出計は315,034,625円、基本金組入前当 年度収支差額は2,265,081円の収入超過となりました。

基本金組入額は24,395,880円で当年度収支差額は△22,130,799円となりました。

<事業活動収入の部>

教育活動収入計は、3億1,722万円となりました。

(1) 学生生徒等納付金収入

2億6,132万円となりました。なお、長期高度人材育成に係わる学生分については受託事業収入に 計上しています。

(2) 手数料収入

前年度と比べ41万円増加の176万円の収入になりました。

(3) 寄付金収入

一般寄付金で14万円の収入がありました。これは卒業記念品分の金額になります。

(4) 経常費等の補助金

県の運営費補助金は電気代高騰に対する補助金分等が加わり852万円を受給しました。また高等 教育修学支援制度による文科省からの補助金は1,157万円となっています。

(5) 付随事業収入

付随事業収入のうち受託事業収入は職業能力開発センターの受託事業および長期高度人材育成に係わる収入です。前年より 851 万円増額の 2,621 万円になっています。

(6) 雑収入

退職金基金からの資金収入 137 万円が計上されています。

<事業活動支出の部>

教育活動支出計は 3 億 1,433 万円となりました。

(1) 人件費

人件費の支払額は 1 億 7,448 万円となっています。そのうち教員人件費が 633 万円減少する一方、職員人件費は 479 万円の増加となっています。

(2) 経費

経費支出は、1 億 3,791 万円となっています。昨年より高騰している光熱水費は今年度も同様に、647 万円となっています。業務の内製化・DX 化も継続しており、報酬委託手数料は 210 万円の減少となっています。

●貸借対照表

<固定資産・流動資産>

固定資産は前年に対し 1,522 万円の減少、流動資産は 1,663 万円の減少となっています。総資産は 9 億 1,982 万円になっています。

<固定負債・流動負債>

固定負債は昨年度に比べ 2,016 万円減少しました。長期借入金も 2,016 万円減少し、計画的に返済ができています。

流動負債は前年に比べ 1,395 万円の減少になりました。

●総括

コロナ禍を経て、学内の DX 化や経費支出の見直しを継続しており、支出内訳なども年々変化しています。教育活動に関わる内容は引き続き充実させつつ、教育施設に関する中期的な計画も進めて参ります。

以上